7月 25日（土曜日）　　「二心」

【新改訳 2017】

ホセア書　10•1－15

「イスラエルは多くの実を結ぶよく茂ったぶどうの木であった。多くの実を結ぶにしたがって、それだけ祭壇をふやし、その地が豊かになるにしたがって、それだけ多くの美しい石の柱を立てた。彼らの心は二心だ。‥‥‥」（1、2節）

二心は神の祝福を台無しにします。主はイスラエルの民は二心だと責めておられます。主の祝福で繁栄しても、ますます偶像とのかかわりを強くしていったからです。

でも、同様のことがキリスト者にも起こらないとは言えません。貧しかった時は一生懸命に主のあわれみと助けを呼び求め、豊かになってくると主への信頼度が小さくなり、自分たちの物的生活の充足に大きな比重を置きます。時間があれば集会に出席し、余裕があったら奉仕をし、ささげる、ということになりかねません。そして心には平安がなくなり、世の流れに押し流されてしまうようになります。

ヤコブの手紙でも、二心の人は心をきよくしなさいと忠告さ

れています（4•8）。

～祈り～

主よ。私たちの犯しやすい二心の罪からきよめ、守ってください。多くの実を結ぶに従って、あなたの栄光を証しするような、良いぶどうの枝でありますように。

【学びのために】

ぶどうの木と枝について：聖書では、その種類によって、いろいろなことばで記されています。特に象徴的な意味で多く用いられています。例えば、ユダヤの国民（イザヤ5•1-7）、恵みの増加（ホセア14•7）、きよめを受ける者（ヨハネ15•2-3）など。